

2022年
(令和4年)
6月7日
(第三種郵便物認可)
昭和23年4月15日
毎月3回発行
(第1、第2、第3火曜日)

今号の特集
▷カレー特集 ⑥～⑦面
▷中元贈答品特集 ⑧～⑩面
▷食用ごま・ごま油特集 ⑫面
中部飲食料新聞社ホームページ
<http://chuin.net/>【業界情報発信中】



第3440号
発行所
中部飲食料新聞社
名古屋市中村区名駅5-18-9
電話 (052)571-7116 代表
FAX (052)571-7118
東京支局
東京都中央区日本橋横山町1-4-203
電話 (03)5614-7531
FAX (03)5614-7532

大正から
中部 飲食料新聞
食を伝えて100有余年

日本アクセス



日本アクセスは「21年度決算」を5月26日に東京本社で発表、佐々木淳一社長が説明した。

【業績】21年度売上高は前年比4.9%増となり、売上規模、収益ともに食品卸業界No.1となることのできた。

【コロナの影響】コロナの影響が見られた19年、20年の3カ年を振り返り、「新型コロナウイルス感染症により経営環境が激変。消費構造や事業環境の変化に早期に対応し、業務改革の断行と事業モデルの変革の推進」に努めた。経営基盤の再構築など収益の安定性及び持続的な成長に向け、顕在化した経営課題を先送りせず、解決を最優先する2カ年として経営計画を策定。果敢と必要に応じて消費行動の変化に対応した取組みの強化を行

収益とも食品卸No.1に

抑制などサステナブル経営の推進などを進めた。

【カテゴリー別】動向では、フローズン群が伸び、特に市販用冷凍食品は23.8%増と大幅伸長。「冷凍食品は今後も優れた保存性や簡便性、さらにはフードロスなどSDGsにも対応するカテゴリーとして成長が継続すると大いに期待する。外食産業はコロナの影響で19年に二六兆円あった市場がわずかに1年で約八兆円の需要が消失し、家庭内消費などに支出がシフトしたと考察する。テイクアウト、デリバリー業態やEコマースが伸長。業態の垣根がなくなり、外食と中食と内食のシームレス化が加速した。外食産業とCVSは、23.8%増と大幅伸長。「冷凍食品は今後も優れた保存性や簡便性、さらにはフードロスなどSDGsにも対応するカテゴリーとして成長が継続すると大いに期待する。外食産業はコロナの影響で19年に二六兆円あった市場がわずかに1年で約八兆円の需要が消失し、家庭内消費などに支出がシフトしたと考察する。テイクアウト、デリバリー業態やEコマースが伸長。業態の垣根がなくなり、外食と中食と内食のシームレス化が加速した。外食産業とCVSは、23.8%増と大幅伸長。」と述べた。

国内酒類事業「サントリー(株)」新体制
7月1日発足、社長に鳥井信宏氏

サントリーホールディングスは、消費者の酒類消費変化を捉え国内酒類事業全体で一元的な経営を進めるため、7月1日付でサントリーBWS及びサントリービール、サントリーウィスピッツ、サントリーワインインターナショナル、サントリー酒類を経営統合し、「サントリー株式会社」を設立する(既報)。

新会社には戦略本部、ビールカンパニー、ウィスピッツカンパニー、ワインカンパニー、サントリーワインインターナショナルカンパニーを置くなど新たな体制を構築する。新会社の代表取締役社長には鳥井信宏サントリーBWS社長が就任予定。また、戦



略本部長にはサントリーBWSの林正人取締役常務執行役員戦略本部長、ビールカンパニー社長にはサントリービールの西田栄一郎社長、スピリッツカンパニー社長にはサントリーウィスピッツの神田秀樹社長、ワインカンパニー社長には吉雄敬子サントリーワインインターナショナル社長、副社長でセールスマーケティングカンパニー社長には山田信宏サントリーBWSの山田

カゴメ
6月27日から新所在地
名古屋支店を移転

カゴメ名古屋支店は、代替え工事中であったカゴメビルの完成に伴い、6月27日に移転し新社屋にて業務を開始する。

【新所在地】名古屋市中区錦3丁目14番15号
【連絡先】電話 052-951-3581 FAX 052-951-9711
【住所】名古屋市中区錦3丁目14番15号

塩坂浩一郎氏逝去(ニチフリ食品)
ニチフリ食品(株)、ニチフリ食品工業(株)、取締役会長、前代表取締役社長、5月25日逝去。80歳。通夜及び葬儀はニチフリ食品と塩坂家の合同葬

【エピソード】では中部の



21年度売上高は二七五八億円でコロナ前の19年度と比較して6.7%増加。全国売上の4.5%増を上回る。今後の食品業界について佐々木社長は「22年に新型コロナウイルスは、エンデミックに移行すると予想するなか、資源高や各種値上がり、インフレなどから所得環境や雇用の悪化、受給逼迫、原材料、資源価格高騰など、引き続き不透明な状況が続くと予測。また、SMやドラッグストア等、業態の垣根を超えた競争・寡占化が激化し、EC事業者

ニチフリ食品
塩坂恵理子氏が社長就任

ニチフリ食品の代表取締役社長に、塩坂恵理子氏(前取締役副社長)が就任した。

塩坂恵理子氏は前社長である故・塩坂浩一郎氏の次女として1986年に静岡県で生まれた。17年にニチフリ食品に入社し、20年には取締役副社長に就いていた。

塩坂新社長は就任にあ



「1940年の創業以来、あったらいいな、を食卓に」をモットーにした商品づくりを続け、多くのノウハウやお客様からの信頼が培われてきた。このニチフリらしさをしっかりと受け継ぎ、成長させていくことが私の役目と考えている。成長には変化と挑戦が欠かせない。2040年に迎える創業100年、そしてその先の未来に向かって、変化に強い組織づくりを中心に誠心誠意努力してまいります」と述べている。

ShinSei
大豆とアーモンドが入った
サクサク旨ごま
ごはんに、サラダに
からだにうれしい調味ごま

トレンドは巡る
野菜飲料ですっきりとした味や飲み心地の商品の人気の高まっている。少し前までは機能性表示食品を取得した濃く飲み応えのあるタイプがトレンドであったが、生活者の嗜好に変化が生じているようだ。なお、それ以前は野菜飲料は飲みやすさでライトユーザーを大きく増やしていたので、トレンドの移り変わりと言えは衣料がわかりやすい。衣料では流行についてカジュアルとフォーマルが数年単位で入れ替わるとされている。デザインや販売においてその流れを踏まえて計画と展開が進められる。

の参入など小売業の業界再編が活発化すると予測する。物流はEC・宅配需要の拡大、燃料費高騰等により物流コストの上昇が見込まれるなか、機械化や自動化、デジタル化への対応による物流の効率化や改善が急務となる。また、事業の効率化や生産性向上などDXをはじめとしたデジタル化、デジタル投資も加速すると予測する」と述べた。

ShinSei
Mart
新顔食品「グランプリ」
2022春夏
総合1位